

令和3年度 施設としての自己評価

瀬名 おひさまの森保育園

平素は瀬名おひさまの森保育園の運営にご理解ご協力いただきまして、ありがとうございます。
以下の通り、園の自己評価を付けました。今後一層より良い園になるよう職員一同努力してまいります。

【1】どちらかというとできていなかった 【2】どちらかというとできていた 【3】ほぼできていた 【4】よくできていた

年目標	自己評価	内容
●保育内容(今年度の重点)		
・愛着についての理解と愛着形成の実践	4	おおそ月齢事の愛着の形成の仕方を職員間で確認。保護者の方が大事にしてきた関わりを理解し、そこから一人ひとりの違いを相関図を使用し深めた。職員の役割を活かしながら、共通理解をもって子どもと関係を深められるようにした。繰り返し行うことでも1回1回に想いをこめて関わることで、愛着が育まれたのではないかと。日々、途中経過を職員間で話すことで、変化を感じることができていた。
愛着についての理解を職員一人ひとりが理解し、深まっている感覚や変化を感じ、実践にあたる。		
・子どもの意欲を伸ばす声掛けの検討と実践	3	Mtg等の学びの場で、新たな考え方に出会ったり、改めて子どもへの声かけの大切さを知る機会となった。そこから園内の昼礼にて、職員一人ひとりが自身の声かけは子どもにどのようになっているのか、振り返り時間を設けた。実践では声をかけた後の、その子の反応や行動をしっかり追いかけて、子どもの意欲に結びついてきたのかを、読み取り関わった。
一人ひとりに合った、意欲が伸びる声かけとはどのようなものかを検討し、実践する。		
●施設設備		
・保育室環境について	3	敏感な時期である子どもたちにとって、室内の温度は適温かどうか、その玩具は適切か等を日々各クラスの職員で検討を重ねた。人と、物と関わる中で生まれる発見や感動をより多く味わうことができる環境設定を保てるように、子どもの姿を捉えて改善していった。時に、安心安全に十分配慮した、手作り玩具も用意し設置した。
利用する全ての人が快適に過ごせる環境を保つ。 子どもの発達に適した人・物的環境を設定する。		
・園周辺環境の活用について	2	年間のカリキュラムと実際の子どもの姿を参考に、日々使用している公園の遊具は、今の子どもたちに適しているのかを、事前に職員への周知を徹底した。周囲には自然豊かな環境が広がる中で、その場所ではどのような感性が育まれるのかをイメージしてから子どもと体験できるように努めた。
子どもの発達に適しているか、安全であるかの検討をし、子どもの保育環境の見直しを行う。		
●保健・衛生		
・感染症対策について	3	重症化しやすい子どもの命を守る為に、早期で予防と対策ができるよう、市の感染症動向を把握した。又、感染症が発生してしまった際の適切な処理や対応の仕方を、定期的に職員全員と確認した。嘔吐医と連携をとり、感染拡大防止の為にできることを聴き取り、職員や保護者の方に掲示や呼びかけを行った。
感染症予防と対策を常に行い、感染拡大防止に努める。		
●運営		
・行事のありかたについて	3	市や地域の感染症の動向を常に把握して、行事の縮小や中止を行った。今までの行事の在り方に捉われず、今できることを職員間で話し合い、思考を重ね、新たな案を取り入れた。子どもの育ちをとめることなく、今しかない瞬間を保護者の方に発信することができる最善の方法を生みだしていった。
コロナ禍における行事の在り方を職員で検討。 行事を通して子どもの育ちに喜びや期待を感じられるきっかけをつくる。		
・保護者との連携体制について	3	家庭と園と、どちらかだけががんばるのではなく、互いの良さを活かしあい、子どもの育ちにつながるように保護者との連携を深めていった。保護者の方の大事にしていることを理解し、受けとめることを職員全員で行った。保護者の方の些細な言動の変化に気づける目や、本当に伝えたい想いに気づける耳をもって関わるようになってきた。
子どもを育てるパートナーとして、連携を深める。 大切に聴く耳を養い、互いの想いを受けとめる。		
・危機管理について	2	日々の施設管理の徹底。一つの例に捉われず、様々なシミュレーションを想定し、それに合った訓練を行った。身近に起きている事例を職員と共有し、もしも自園で起きたらどのように対応できるのかを考え訓練をし、活かせるように情報の活用もした。
防犯や災害の想定をし訓練等を行い、職員全員が対応できるようにする。		

【総評】

平素より、園へのご理解とご協力を誠にありがとうございます。
本年度も流行していた新型コロナウイルス感染症や、災害等、いつ自分の身に起こるかわかりません。園では、様々な出来事を想定しながら職員で対応を検討し、共通理解をもって、もしもの時に備え取り組んできました。
日々の保育の中では、子どもの育ちにあった保育室の環境をクラスごと考案したり、愛着を深めながら子どもが自己発揮できる声かけや関わりを常に考え実践しました。
今後も保育の専門性を向上させ、一人ひとりの自立と共生をサポートできるように一層尽力して参ります。
引き続きよろしくお願致します。

令和4年3月1日

園長 前川 冬美香

上記の園自己評価の結果を掲示とともに開示させていただきます。尚この掲示は3/1から来年度4/末日まで開示します。